



たけのこ通信



2012年 秋号 NO.7

229日という長い通常国会も一旦幕を閉じました。会期の長さに比べ、充実感はと言うと…。参議院では、前田前国交大臣、田中前防衛大臣の問責に対し政府から何の打開策も無いまま約2カ月間の開店休業状態が続き、税と社会保障の一体改革では「近いうち」の言葉を信じて何とか三党合意はまとめあげたものの、その後の与党は解散先延ばしに腐心するばかりで、国会は閉じられました。

その間、東日本大震災の復興の遅れや長引くデフレ経済に加えて、領土問題をめぐって日韓・日中の関係が戦後最悪と言われるほど悪化するなど、民主党政権の三年間は、まさに「内憂外患」の日本を作り出してしまいました。

最初から野田総理の再選が決まっていた民主党代表選挙に対して、自民党の総裁選挙は久しぶりに野党の自民党にスポットライトが当たった総裁選でした。私が石原陣営の一人として地方遊説にも同行させていただき感じたことは、手前味噌になるかもしれませんが、今回の総裁選5名の候補者の方々はどなたが総裁になっても十分にその任を果たしていただける5名の戦いだったということです。自民党の層の厚さを象徴する総裁選挙だったと思います。



安倍新総裁が誕生し、意中の候補と違った議員や党员の方には多少の不满があるかもしれませんが、結果が出た以上、私たちが立ち向かう相手は与党・民主党であり、次なるステップは一致結束して政権奪還を目指すのみです。それが自民党のためではなく、日本のため、地方のため、そして被災地のためとの信念に基づいて、引き続き努力してまいります。変わらぬ叱咤激励を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

参議院議員

渡辺 猛之



～渡辺たけゆきに訊く～

時事問題 2012

参議院議員に当選してから早くも2年余り。山積する政治課題について、渡辺議員に聞いてみました！

— 社会保障と税の一体改革の法案が成立しました。地元での反応は？

消費増税は避けられない、ということは理解してもらっているが、今のような経済状況で税率を引き上げるには不安がある。だからこそ、自民党は増税法案に景気条項を入れた。8%、10%に引き上げる期日は決まったが、そのときの経済状況を見て対応しないといけない。

— 依然として厳しい雇用環境です。

仕事をつくるのが、まさに政治家の仕事。今、地方ではその場が失われている。グローバル化、新自由主義、強いものが勝つ、というのはいずれも、日本人のDNA とは矛盾するのではないか。例えば、終身雇用や年功序列がそんなに悪いことだったとは思わない。↗

▶ どういう働き方、経済が日本人に合うのか、もっと自信を持って、日本人らしさを見つめ直しても良いと思う。

— 雇用創出という観点では、どんな策があるでしょうか。

やはり新成長分野。研究や技術開発には長い時間がかかるのだから、短期的な結果を求めて切り捨ててはいけない。あとは、公共事業が持つ景気の刺激効果をもう一度見直すべきだと思う。景気対策というのは、民主党がやったようなパラマキ政策ではない。まわっていくお金をいかに政府が出していくかが大事だ。

— 企業がどんどん海外に行ってしまうことで、若者の雇用が失われているという面もあるのでは？

人件費が高いなどの理由で国内の雇用が低迷しているが、本当に働く意欲がある人が働ける場所を確保するのが政治家の仕事だと思う。



ブログも随時更新中！

渡辺たけゆき を検索！

<http://watanabe-takeyuki.seesaa.net>

— 金融円滑化法が今年度末で期限を迎えます。

仮に廃止するなら、新たな策を講じる必要が絶対にある。口先だけでなく、政治家に、「この国を支えているのは中小企業だ」という信念があるかどうか。「小規模企業を支援する参議院の会」というのを今年の3月に立ち上げて勉強会を続けているが、なんとしても小規模企業基本法に結実させたい。

— 年金や最低賃金と生活保護の逆転、生活保護費の膨脹が指摘されていますが、望ましいあり方は。

上手に権利を主張した人が得をする形になっているので、これは是正しないとイケない。どこに手をさしのべるかが政治に問われるところだが、やはり「頑張っている人を応援する」のが重要。何でもかんでも、ほしがっている人にあげる、みたいなやり方ではダメ。結果の平等ではなくて、機会の均等を目指していかないとイケない。



↑ 自民党ぎふ政治塾、第1期生の修了式にて。

— これからのエネルギー政策、原発のありかたについて、どう考えますか。

まず、原発を明日からすぐにゼロにするというのは無理な話。一方で、福島原発警戒区域内も視察したが、それを見ると、これまでのように原発に頼っていくのは間違いだということも事実だ。ゆるやかに脱原発というのが妥当ではないか。政府がやるべきなのは、どういうスケジュールで原発への依存度を下げっていくのかを示すことだ。

— 7月から、再生エネルギーの固定価格買取制度が始まりました。

新しいエネルギーのインセンティブを与えるという意味で、いい制度だと思う。ただ、先駆者として始めた人が報われない仕組みになってしまったのが残念だ。個人的には、これからは海洋資源をエネルギーに利用できるかがポイントになると思う。技術が進めば、いろんな可能性が開けてくるだろう。

— 技術や研究に対する支援が日本は少ないのでは、とよく言われます。

技術開発やイノベーションは毎回毎回成果が出るわけではないから、研究現場の「あとちょっとでできるんです！」という言葉を信じるかどうか、政治家の器の問題だ。民主党は、今効果が出ているかどうかという点だけで仕分けをしたが、それは政治のやることではない。



↑ 国土交通委員会にて、低炭素まちづくり法案の質疑



— もし総理大臣になったら、どこに重点を置きますか。

政治は弱いところに余裕を持って予算を流すべきだ。そういう意味では、やはり地方。地方にただお金を渡して完結するのではなくて、地方を刺激することで都市へもお金をまわす、という仕組みをつくることのできればいいと思う。

— 今の政府を見て、どんなことを感じましたか。

法案にしろ予算にしろ、何としてでも通すという強い信念で国会運営をしないといけない。ところが民主党は、とりあえず法案や予算を出すけれども、通らなかつたら責任は分担ですよ、というやり方でしょう。それでは政権を担う資格がない。法案と予算を通すためなら、命がけでやらなくては。

— 民間企業は厳しい経済環境の中で、必死にコスト削減に取り組んでいます。国はどうあるべきでしょうか。

効率第一主義みたいなのは日本人には合わない。民間企業の感覚からは外れた感じかもしれないが、民間を政治が後追いするのは愚の骨頂だ。どかっとな腰を据えて、日本はこれでいいのか、ということを考えて、行き過ぎたところは修正するのが政治の役割だと思う。公は民間ではできないところを補完する役目があるのではないかな。

— 岐阜の強み、展望は。

日本の真ん中にある県として、交流や物流の拠点になるよう、道路ネットワークを活用して強みを発揮したい。また、国内有数の森林県としての役割を自覚し、果たしていかないとイケない。外資が日本の水源林を買いあさっているという話があるが、国がやらないから北海道や埼玉県などは条例をつくって対応している。そのあたりで国ができることも考えたい。

— どうもありがとうございました！



関市議会副議長就任
祝賀会で歌声を披露



ファミリーホーム「安江さん家」を視察
(小規模住居型児童養育事業所)

渡辺たけゆき国会事務所 担当：鈴木

100-8962 千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 325 号室
電話 03-6550-0325 FAX 03-6551-0325

QR コードはこちら▶

